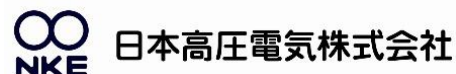


お客様・工事店様・保安業務関係者様 各位



日本高圧電気株式会社

過電流ロック形高圧気中負荷開閉器（2004 年～2013 年製）スイッチ OFF 後、再投入操作ができない事象について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

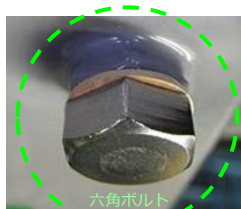
また、平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件、2004 年～2013 年製過電流ロック形高圧気中開閉器（以下「当該 PAS」と記述）において、機器の停電点検時にスイッチ OFF をした後の再投入操作が出来ない状態に至る事象が一部のお客様で発生いたしました。現在までの調査によれば、当該事象の原因は、当該 PAS の気密栓※の気密性能が保てなくなる事象が稀に発生し、ここから湿気が機器内部に侵入したことにより内部機構部が錆びたことによるものと推測されます。皆様にはご心配、ご迷惑をおかけし、まことに申し訳ございません。

なお、当該 PAS は過去に販売済の製品であり、現在販売は終了しております。現在販売されている製品については、これまでに同種事象の報告はなく、本お知らせの対象ではありません。

現在販売されている製品についてはこれまで通り安心してご利用いただけます。

※ 気密栓とは、工場における開閉器製造過程に於いて組み立てられた開閉器ケースに気密漏れが無い事を確認する際にケース内部を加圧する為にケース下部に設けられた気体注入口を、検査後に閉じるための栓です。



2004 年～2011 年頃製造品の気密栓例



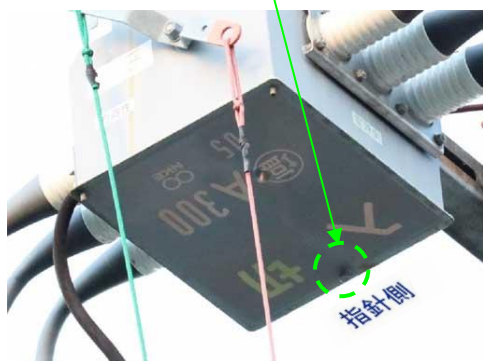
2011 年～2013 年頃製造品の気密栓例
(ボルトがケースと同色に塗装されたもの
やカラーチェックの無いものもあります)



2013 年頃～現在の気密栓
本お知らせの対象ではありません

対象機種

- 形式名称 : NEAS-シリーズ
- 対象製造年 : 2004 年～2013 年製の内、気密栓に“六角ボルト”を使用しているもの



2004～2011 年頃製造品
(開閉器をハンドル側下方から見た様子)



2011 年～2013 年頃製造品
(開閉器を指針側斜め下方から見た様子)

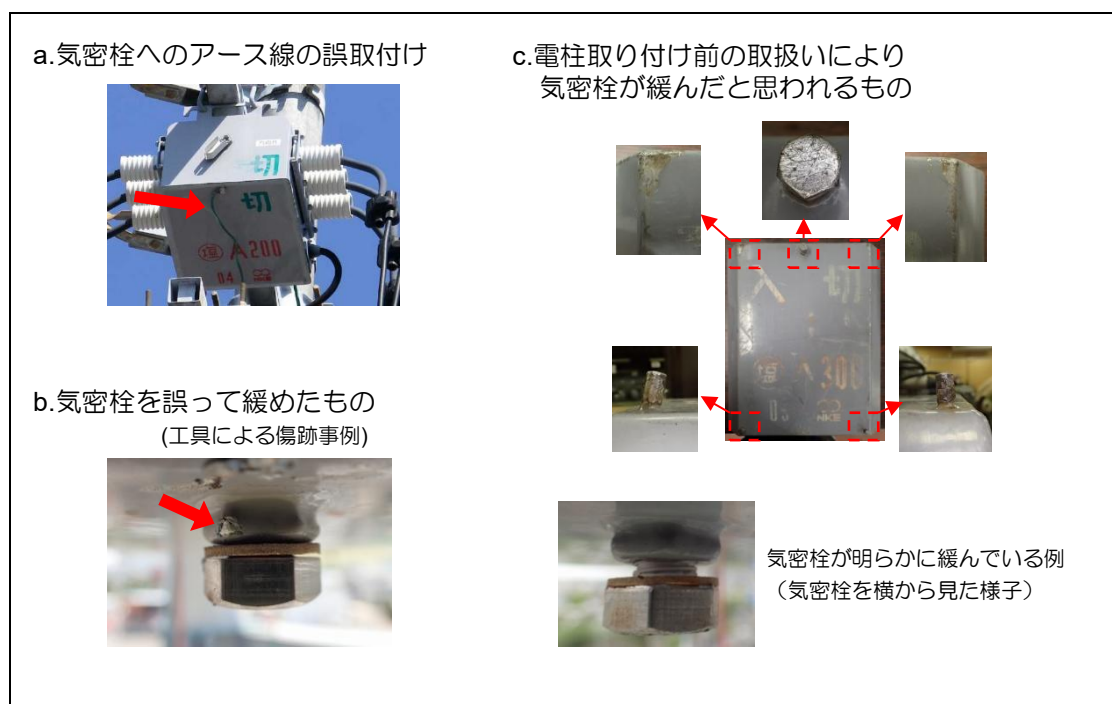
本事象による影響

これまでの報告、分析上、本事象による影響は以下のように考えられます。

- 1) 本事象発生時は再送電するために、機器の取り替え、或いは機器のバイパス工事に必要になり、復電に通常点検より多くの時間がかかります。
- 2) 開閉器の通常使用において不要トリップ動作（停電支障）を起こすことはありません。
- 3) 本事象が発生した場合にも、爆発したりするような事は無く公衆災害に至るようなものではありません。
- 4) 本事象に起因して波及事故（電力グリッドに影響を与える事故）に至った事例はありません。

発生事例

本事象の発生の主たる原因に成ったと思われる気密栓緩みの事例を右に示します。



発生要因

- 1) 上述のような種々の外的要因により気密栓が緩んだものが見つっております。
- 2) その他、2011年～2013年6月に製造した機種の一部より、弊社製造工程内での気密栓取り付け角度が通常より大きく傾いていたために気密性能が維持出来なかった事例が少数ですが発生しています。

お客様へのお願い

本事象及び弊社取り組みについて述べましたが、発生事例で示したような気密栓の緩みを発見された場合は、下記お問い合わせ先まで一報お願いいたします。

弊社では、さらなる詳細や現場対応等についてご説明させていただくよう体制をとっておりますので、必要な場合のお問い合わせは下記担当部署までお願いいたします。ご相談の上、状況に応じ誠意を持って対応をさせていただきます。

なお、本事象発生防止のため、アース線は取扱説明書に従い正しい位置へお取り付けいただき、開閉器の気密栓を工具等で回すことの無いようご注意お願いいたします。

また、開閉器は丁寧に扱い、引きずる、落下する等の無いよう取扱いにご注意お願いいたします。

お問い合わせ先

日本高圧電気株式会社 PAS お客様相談室

受付電話 (受付時間：平日 8:20～17:05) ※	2025.3.21 追記 お問い合わせ先は閉鎖しました
メールアドレス	

※ 休日の対応はいたしかねますので予めご了承下さい。

以上